

2025年度日本家族社会学会大会ニュース No.1

編集・発行：日本家族社会学会研究活動委員会
委員長 木戸功（聖心女子大学）

Email : pxk11112@me.com

日本家族社会学会第35回大会の概要と報告募集のご案内

今年度の「大会ニュース No.1」をお届けします。日本家族社会学会第35回大会は、本年9月6日（土）、7日（日）の両日、金城学院大学（大会実行委員長：宮坂靖子会員）にて対面での開催を予定しています。

このニュースでは、大会の基本的な構成と、自由報告ならびにテーマセッション・特別セッション等の応募と締め切りのスケジュールなどをお知らせします。今後、セッションの企画に応募された方、ならびに自由報告を申し込まれた方との連絡は、研究活動委員会が必要に応じて個別に行います。大会についての会員全員へのお知らせは、今後、大会ホームページや学会メールマガジン、「大会ニュース No.2」で行います。

1. 大会の構成

- 現時点では、以下の構成を予定しています。ただし報告のエントリー数などによって変更する可能性があります。プログラムは7月発行予定の「大会ニュース No.2」でご確認いただけるように準備します。

第1日目 9月6日（土）

10:00-12:30 自由報告(1) テーマセッション・特別セッション
12:30-14:00 昼食・交流スペース・委員会等
14:00-16:30 自由報告(2) テーマセッション・特別セッション
16:45-17:45 総会
18:00-19:00 交流会

第2日目 9月7日（日）

10:00-12:30 自由報告(3) テーマセッション・特別セッション
12:30-13:30 昼食・委員会等
13:30-16:00 シンポジウム

- 別途、別刷交換コーナー、書籍販売コーナー等を設置予定です。
- 会場までのアクセスなどについては「大会ニュース No.2」でご案内します。

2. 大会シンポジウム「家族の「多様化」を再考する—30年の歩みと新時代の家族社会学の想像力（仮）」

日本家族社会学会の発足時に有力な枠組みのひとつだったのが、「家族多様化説」でした。これは従来の核家族論（核家族パラダイム）を乗り越えるものとして受容されました。近年の国内外の家族社会学研究においては、「多様性・多様化 diversity」が重要な用語となっています。とはいえ、何を以て「多様化」と考えるか、「多様化」という言葉で何を指しているのかということについては、十分な合意がとられているとはいえないかと思われまふ。たとえば1980年代の「多様化」論では、「共働き」や「生涯シングル」の増加は予期されているものの、経済的格差の問題はほとんど取り上げられていません。「多様化」という言葉が指す事象は幅広く、その枠組みを共有する機会がなければ、議論の相互交通がとれない場面も多くなると思われまふ。

本シンポジウムでは、現在は1980年代の「多様化」についての想像力以上に、ポスト工業化、グローバル化の進行が進んだ時代であると位置づけ、これまでの「多様化」論で必ずしも十分に取り上げられてこなかった、①女性の就業、階層と家族形成、②移民家族、③性的マイノリティと家族、の3報告を設定しまふ。コメンテーターは、過去30年間の家族社会学の問題関心や実態としての家族変動をグローバルな視点から討論いただける先生に登壇いただきます。

「多様化」という問題関心からすれば、①～③以外にも重要なテーマは考えられまふが、研究活動委員会としては、これら以外のテーマも検討したうえで、今回は上記の3テーマに設定しまふ。

①～③のテーマは巨視的にみれば、「第一の近代」から「第二の近代」への移行にかけて目立ちはじめたトピックです。すなわち、「第一の近代」を形づくった工業化社会においては、国民国家内の中間層の安定とともに、再生産と結びついた異性愛中心の家族秩序の規範が強固になりました。しかし「第二の近代」におけるグローバル化の進行とともに、それまで一国内のなかで抑制（抑圧）されていた、階層、エスニシティ、性の多様性に関する課題を避けて通ることはできなくなりました。①～③のテーマについて総括を試みるというよりは、①～③のテーマを共有し、その連動を考えながら、家族社会学が捉えるべき「多様化」や「家族」について、今後の議論を喚起しうるシンポジウムにすることが狙いです。

日本家族社会学会は、マジョリティとされる人びとの研究（NFRJ）を立ち上げつつ、近代家族論、家族多様化説を受け入れ、幅広い研究をしてきました。学会30年の歩みとともに進行した、これまで十分に学会で共有されていなかった「多様化」の実態を踏まえ、新時代の家族社会学が追求すべき「家族」とは何かを考える機会としたいと思いまふ。

報告1：女性の就業、階層と家族形成 木本喜美子会員（一橋大学名誉教授）

報告2：移民と家族 三浦綾希子氏（中京大学）

報告3：性的マイノリティと家族 杉浦郁子氏（立教大学）

討論者：落合恵美子会員（京都産業大学）、筒井淳也会員（立命館大学）

3. ポスターセッションについて

事前のエントリーが5件以上あった場合、ポスターセッションを実施します。エントリーが5件に満たなかった場合は、自由報告は口頭報告のみとなります。

4. テーマセッションおよび特別セッション（国際セッション、ラウンドテーブル、書評ラウンジ）について

さまざまな企画が可能です。積極的にご提案ください。企画全体や一部の報告を英語で行うことも可能です。

(1) テーマセッション

テーマセッションは「企画全体提案型」のみとなります。一定のテーマに基づいて関連発表を組織し、司会者、報告者、ならびに討論者の有無を事前に企画した上で提案してください。

(2) 国際セッション

海外の研究者を交えて運営される企画をお持ちの方は、「国際セッション希望」と明記してください。このセッションで報告なさる会員外の方の資料の印刷や通訳などに対して、研究活動委員会に若干の補助金枠があります。どのような資金援助を希望するか明記してください。予算は限られていますので補助がない場合の運営方法も考えておいてください。

(3) ラウンドテーブル

定まったパターンはなく、比較的少人数で、話題提供者の問題提起を中心に、自由にアイデアを交換しあうことが目的です。話題提供者の方が申し込んでください。

(4) 書評ラウンジ

書評の対象とする著書や論文をあらかじめ決めた上で、報告者や討論者などを選定して申し込んでください。当日の運営は自主的に行ってください。

5. 申し込み要領と締め切りについて

(1) テーマセッションおよび特別セッション（国際セッション・ラウンドテーブル・書評セッション）

- 企画案の受け付け開始は 3月28日（金）、締め切りは 4月11日（金）正午です。申し込みの受け付け窓口は、「日本家族社会学会ヘルプデスク（jsfs-desk@conf.bunken.co.jp）」です。企画題目と趣旨（800字程度）、オーガナイザー（テーマセッションおよび国際セッションの場合は、司会者、報告者、討論者を含む）を明記してください。指定のExcelファイルを大会ホームページよりダウンロードし、申し込み内容を記入の上、提出してください。
- 後日、研究活動委員会から企画案の採択結果をお知らせします。企画が採択されたら、テーマセッションの報告者の方は各自、オーガナイザーと調整の上、要旨原稿を提出してください。国際セッションは、オーガナイザーが責任をもって報告者全員の要旨原稿をとりまとめた上で提出してください。締め切りはいずれも、5月22日（木）で

す。

- 提出先は、大会ホームページより、マイページと同じ会員番号とパスワードでログインして提出してください。国際セッションのみ、メール添付にて大会ヘルプデスクにお送りください。

(2) 自由報告（ポスターセッション）

- 事前の受け付け開始は 3月28日（金）、締め切りは 4月11日（金）正午です。申し込みの受け付け窓口は、「日本家族社会学会ヘルプデスク（jsfs-desk@conf.bunken.co.jp）」です。指定の Excel ファイルを大会ホームページよりダウンロードし、申し込み内容を記入の上、提出してください。
- ポスターセッション実施の可否について後日お知らせします。エントリーが 5 件に満たなかった場合ポスターセッションは実施しません。ポスターセッションを実施する場合、要旨原稿を提出してください。締め切りは 5月22日（木）です。
- 提出先は、大会ホームページより、マイページと同じ会員番号とパスワードでログインして提出してください。

(3) 自由報告（口頭報告）

- 報告申し込み・要旨原稿提出ともに受け付け開始は 4月11日（金）、締め切りは 5月22日（木）です。報告題目に必ず要旨原稿を添えて申し込んでください。
- 日本語以外に、英語での報告も受け付けます。
- 要旨原稿は、大会ホームページのテンプレートのフォーマットを順守して作成してください。日本語と英語で異なります。ご注意ください。また、連名報告の場合のみ、口頭発表者の前に○を入れてください。
- 提出先は、大会ホームページより、マイページと同じ会員番号とパスワードでログインして申し込んでください。

6. その他の特記事項

- 大会期間中に登壇しての報告は 1 人 1 回とします（ポスターも含む）。
- 連名報告は認められていますが、1 報告あたりの発表者（登壇者）は 1 名です。また、要旨作成の際には発表者（登壇者）の名前の前に○を明記してください（連名報告以外の場合この○は不要です）。
- 報告者の資格要件
報告は、本学会会員でありかつ定められた会費を納入していることを資格要件とします。現会員の方は、前年度（2024 年度）までの未納会費がないよう注意してください。新入会員については、5月7日（水）までに入会手続きを行い、その後会費を納入してください。会費納入期日はいずれも 5月12日（月）です。ただし、国際セッションの報告については、会員以外の報告を認めます。
- 大会要旨集（PDF）に広告掲載をご希望の方は大会実行委員会までメール（jsfs-

taikai@bunken.co.jp)にてお問い合わせください。

7. 今後の予定について

7月中旬には「大会ニュース No.2」(大会プログラム)を公開します。大会に関する情報は、学会のホームページやメールマガジンで逐次お知らせしますので、ご覧ください。

研究活動委員会 木戸功

8. 大会実行委員会から

日本家族社会学会第35回大会は、2025年9月6日、7日に金城学院大学(名古屋市守山区)において対面で開催する予定です。

「日本家族社会学会ニューズレター」No.73でもお知らせいたしましたが、本学は名古屋市のはずれの小高い山の中にあるため、アクセスがよいとはいえ、ご不便をおかけすることになります。

最寄り駅の大森・金城学院前駅(名鉄瀬戸線)までは、「名古屋(JR中央線)→大曾根で名鉄瀬戸線に乗換」ルートと「名古屋(地下鉄東山線)→栄町で名鉄瀬戸線に乗換」ルートの2つがあります。栄付近に宿泊され後者のルートでお越しいただくと便利かと思えます。栄町駅は名鉄瀬戸線の発着駅になりますので、乗り換えなくお越しいただくことができます(普通20分、急行・準急15分)。最寄り駅から大学正門までは結構な坂道を5分程度上っていただくことになります。

大森・金城学院前駅付近にはコンビニなどはなく、また、学内のショップは閉店しておりますのでご注意ください(お買い物は名鉄瀬戸線に乗り換えるまでにお済ませください)。

今年度は、昨年度まで好評でした交流会を装いを新たに、第1日目昼休みに「交流スペース」(参加費無料)を設けること、総会後の交流会は参加費有料とし軽食とともにご歓談いただくかたちで実施することを予定しております。詳しくは「大会ニュース No.2」でお知らせいたします。

実行委員には新たに磯部香会員と笹岡克比人会員の2名を加え、8名体制となりました(ちなみに名古屋市の市章は○に八の字です)。本大会が有意義で快適な学術交流と親睦の場となるよう実行委員一同で準備を進めております。皆様のお越しをお待ちしております。

第35回大会実行委員会

委員長 宮坂 靖子(金城学院大学)、

青木加奈子(京都ノートルダム女子大学)、磯部 香(高知大学)、

上野颯子(金城学院大学)、笹岡克比人(名城大学)、末盛 慶(日本福祉大学)、

大山小夜(非会員・金城学院大学)、福田峰子(非会員・金城学院大学)